

小中学生版 Vol.16

発行所 〒329-0101
栃木県下都賀郡野木町大字友沼5840-7
野木町社会福祉協議会
(この新聞は共同募金配分金事業で発行されています)
令和3年2月25日発行



がんが ふくしきよういく
みんなで考える福祉教育

ち い き ふ く し し ん ぶ ん

地域福祉新聞



ただいま、おかえりって言いあえるまちに
みんなで広げよう
シトラスリボンプロジェクト
INとちぎ



わたしたちは
シトラスリボンINとちぎ
に参加しています

たとえウィルスに感染してしまっても誹謗中傷
されず、差別の無い優しいことばにあふれるまち
「とちぎ」でありますように・・・

シトラスリボンポスター

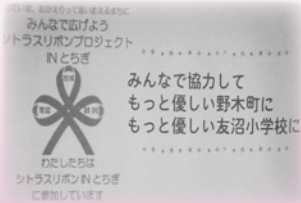
野木町社会福祉協議会では、町内の小・中学校7校を「学童・生徒のボランティア活動普及事業」協力校に指定し、各校の福祉教育担当の先生の方と社会福祉協議会、ボランティアの方々と交えて年3回連絡会議を開催しています。

令和2年度は新型コロナウイルス禍において工夫して行われた各校の福祉に関する事業、福祉教育に関わるボランティアの方々の様子などを掲載いたしました。

友沼 小学校

友沼小学校では、4年生が「総合的な学習の時間」に福祉の学習をしています。ハンディキャップ体験では「アイマスク体験」「車いす体験」を実施し、ハンディキャップのある方がおかれている状況や、障がいに対する理解を深めることを目標に活動しました。人権学習会では、社会福祉協議会の方々に「もし大切な人がコロナウイルスに感染してしまったら？」という内容で人権に関するお話をいただきました。1年生は、町更正保護女性会の方々とチューリップ植えを行いました。

人権学習会



2年 須田 翔

ちくちくせかいになるといやなことがあるし、ぎゃくにふわふわせかいになると、え顔や元気がとりもどせるんだと思った。

3年 塚原 優和

ふわふわ世界が一番平和で友だちがやさしい。ちくちく世界だと友だちがやさしくないし、いやな気持ちになる。こんどからは、自分はふわふわ世界みたいにする。

注) ちくちくせかい……コロナ感染者への差別や偏見が行われている冷たい世界
ふわふわせかい……コロナ感染者などへ優しい言葉をかけられる温かい世界

5年 岩間 大凱

これからいじめをなくして みんなで楽しい学校生活を送りたい。もし、友だちがコロナにかかって、そのあと退院しても悪口を言わないで「おかえり」と声をかけてあげようと思った。

6年 田中 陽貴

やっぱり人間という生き物は恐怖を感じるから差別とかをするんだと分かりました。コロナに負けない強い心が必要だと思いました。コロナに負けずに差別をなくそう！



野木町更生保護女性会の方々とチューリップ植え



1ねん のざわ しゅんた

つちをおしちやだめだとおしえてもらいました。チューリップのきゅうこんのかたちは、くりみたいなかたちをしていました。

1ねん まつした ちかう

きゅうこんをうえて、たのしかったです。またやりたいなとおもいました。はやくさくといいなとおもいました。

1ねん おない あい

きゅうこんのかたちは、上がとんがっていました。土がたりなかったから、ふやしてもらいました。はやくさいたらいいなとおもいました。

1ねん さかい そうすけ

チューリップのきゅうこんのかたちは、にんにくみたいなかたちでした。なにいろがさくのか、とてもたのしみです。



ハンディキャップ体験

(アイマスク体験)



4年 松葉 輝

目の見えない人は、ちょっとした階段や段差も怖いことが分かりました。手伝い人の手を借りないと、とても怖いなと思いました。

4年 出羽 芽衣

アイマスク体験をやってみると何も見えなくて、障害を持っている人は怖い思いをしていると思いました。見た目は、そんなにキツそうではないと思っていたけど思いついていられないことだらけでした。

4年 中上 陸翔

アイマスクをしたとき何も見えないから、段差や障害物などがあると、杖や手助けの人がいないと、とても難しいことが分かりました。

4年 尾内 智哉

指示をするときに、一歩間違えたらアイマスクをつけている人が何かに激突する恐れがあるので、今後気をつけて助けてあげたいです。

(車椅子体験)

4年 爲我井 咲歩

車椅子では、ちょっとした段差や階段も1人では行けなくて大変なの分かりました。もし、困っている人がいたら助けてあげたいです。

4年 長谷川 千華

車椅子を実際に体験してみて、車椅子に乗っている人たちは、自分でタイヤを回して動くことができるけど、1人で動かすのは難しいことが分かりました。

4年 井岡 郁寧

車椅子に乗って動かしてみると、難しくて段差も上がれないということが分かりました。だから、車椅子の人を見掛けたら、すかさず押してあげようと思いました。

4年 新井 心陽

1人で動かすのがすごく大変でした。車椅子を押しているときは、声を掛けてあげて段差を下りたりすることが分かりました。また、車椅子にはいろいろな種類があることが分かりました。



野木 小学校

野木小学校では、4年生の総合的な学習の時間に『福祉』について学習しています。ハンディキャップ体験を通して「ひとにやさしい」とはどのようなことなのか、自分にできることはどんなことかなど、考えを深めることができました。

アイマスク体験



目の前が真っ暗で、誰かの補助がないと不安でした。

あきやま けいた
秋山 啓太

周りが見えなくて階段を踏み外してしまいました。とても怖かったです。

あらい はなえ
新井 花奈恵

目が見えなくて大変でした。特に階段を下りるのが怖かったです。

おおたき りゅうち
大瀧 龍智

歩きなれた廊下がアイマスクをして歩いたら、とても長く感じました。

おりはら ののか
折原 希果

目が見えなくて不安でした。誘導をするときも指示を出すのが難しかったです。

かみやま そらた
神山 空太

なにがどうなってて、どこにいるのか分からなくなりました。転びそうになって怖かったです。

かわしま かれん
川島 花恋

目が見えないとどういう行動をとればよいか分からなくて不安になりました。

かわしま ゆうせい
川島 悠聖

目が見えなくて怖かったです。目が不自由な方大変さが分かりました。

かんばら しんのすけ
神原 信之介

前が見えなくて階段の上り下りが大変でした。

くりはら さくと
栗原 朔斗

人にぶつかりそうで不安でした。介助があったおかげでうまく歩くことができました。

こくぼ はるいち
小久保 晴市

介助してくれたおかげで安心しました。私も困っている人がいたら介助してあげたいです。

しみず あきな
清水 明奈

介助をしてあげるときに何と言っていいか分からなくて難しかったです。

しめかけ えいた
七五三掛 瑛太

誘導ブロックのおかげで見えなくても、この先に階段があるということが分かりやすかったです。

すぎぶち
杉淵 このは

ふだんは簡単な階段の昇り降りが、アイマスクをするととても難しく大変でした。

すとう あやな
須藤 綾奈

付き添いをしていてもアイマスクをしている人が、大丈夫かどうか心配でした。

せき まなみ
関 真奈美

車いす体験



坂をくだるときに後ろ向きになり、スピードも出るので怖かったです。自分でこぐと腕がすごく疲れたので、大変さがよく分かりました。

そのべ
園部 らふあ

少しの段差でも不安定な動きになるので、車いすに慣れるまでに時間がかかりそうだと思います。

たかた はやと
高田 颯斗

坂道を通るときが怖かったです。思うように運転ができませんでした。

たかはし あかり
高橋 明梨

車いすが思うように動かせなかったです。足が自由に使えないことはとても大変だと思いました。

たきざわ だいき
瀧澤 大輝

ちょっとした段差でも登れなかったので、車いすは大変だなと思いました。

とのおの な お
遠野 那和

思ったよりも移動はしやすかったけど、段差をこえるのがとても大変でした。

なかむら ゆいり
中村 唯莉

車いすに座ると目線が低くて、動き回るのが少し怖かったです。少しの段差でも上がるのが難しかったです。

ぬまた さすけ
沼田 佐介

操作が難しかったです。車いすで生活している人の苦勞が分かりました。

はやし はるみ
林 治美

視線がいつもより低くなって、周りの様子が見えにくかったです。

まつもと ここみ
松本 心海

自分で操作するのは、思っていたより簡単でした。だけど、介助をするときに段差を通るのが大変でした。

まつもと ゆうこ
松本 悠吾

介助をしたときは、坂道で自然とスピードが速くなってしまって操作が難しかったです。

みずかみ ひろゆき
水上 寛之

自由に歩いたり、走ったりできなくて大変だと思いました。車いすも思い通りに動かすのが難しかったです。

みやかわ
宮川 らん

小さい段差を上ることも大変で、後ろに傾くので怖いなと思いました。

やまなか はるな
山中 陽菜

坂道を登ったり、下りたりするのが大変でした。町で見かけたら手伝いたいと思いました。

よしまつ さく
吉増 朔

思っていたより車いすが重くて押すのが大変だと思いました。車いすに乗る人の気持ちが分かりました。

わたなべ ことね
渡邊 琴音

佐川野 小学校

佐川野小学校では、地域の方々やボランティアの方々に協力していただきながら、農園活動を行っています。農家のプロの方に植え方や育て方、収穫の仕方まで教わりました。1、2年生は生活科で、3～6年生は総合的な学習の時間で食農教育について学習し、食と農についての関心を高めることができました。



きゅうこんをうえたよ

1ねん いのうえ るきあ

ぼくは、ふせぎさんにおしえてもらって、チューリップのきゅうこんをうえました。

チューリップのきゅうこんは、たまねぎみたいなかたちをしていて、おもしろかったです。ふわふわのチョコレートいろのつちは、ほうじとさんがもってきてくれました。

なにいろのチューリップのはながさくのか、とってもたのしみです。

がんばってそだてたキュウリ

2ねん 前澤 幸助

ぼくは、のうえんボランティアのほうじとさんに、やさいのうえ方やそだて方をおしえてもらいました。

そだてて分かったことは、キュウリのはっぱは、ふわふわしていてチクチクしていることです。そして、せいちょうがはやいです。

しゅうかくして、つけものにして食べました。シャキシャキしていておいしかったです。



のう園活動でさまざまな野菜を育てた

3年 鈴木 涼音

ぼくは今年、佐川野小学校でのう園活動に、たくさん取り組みました。

野菜の育て方でわからないことがたくさんあったけど、のう園ボランティアの寶示戸さんに水やりの仕方や世話のポイントなど、とても丁寧に教えていただきました。

みんなで協力して、野さいがたくさん収かくできたので、とてもうれしかったです。

サツマイモ作りでうれしかったこと

4年 小池 美碧

私は、ファミリー班でサツマイモ作りをしました。野菜やサツマイモの収かくができたことがうれしかったです。農園の先生寶示戸さんのアドバイスでサツマイモ畑を農園の南側に作りました。収かくの時のサツマイモの大きさに、とてもびっくりしました。

来年も、農園の先生寶示戸さんに教えてもらいながら、たくさんの収かくをしたいと思います。佐川野小のみんなと、野菜、サツマイモの世話をがんばりたいです。



館野さんに教わった田植えと稲刈り

5年 岡田 果穂

私は、田植えや稲刈りをしました。ボランティアの館野さんに植え方や稲の刈り方のポイントを教わりました。教えてもらった通りにやってみると、去年より上手にできました。

来年も田植えや稲刈りをすると思うので、今年教わったことをふまえて頑張りたいです。

大森さんとのトマト栽培

6年 前澤 優月

私達は今年、学校農園で育てたトマトをJAの直売所で販売しました。

農家の大森さんに、トマトの育て方や病気にならない工夫をたくさん教わりました。大森さんがいなかったら、このような体験はできなかったと思います。

私は、大森さんに教えてもらったことを忘れず、将来に生かしていきたいと思います。



南赤塚小では、4年生の総合的な学習の時間「みんなにやさしい街づくり」の学習で、車いす体験、アイマスク体験などを行っています。他にも、人権週間の活動を中心に、人権に関するビデオを鑑賞し、人権問題について学級で考えています。今年度はシトラスリボン運動もあり、子供たちは新しい人権問題についても理解を深めることができました。

人権週間



「こだめきボンとこぎつねコン」を見て

私は、ボンとコンの家をつなぐ橋を作ったのがいいな、と思いました。なぜなら、家族に「なかよくしてはだめ。」と言われても、決めつけしないで2人がなかよくなれたからです。わたしも相手のよいところを見て、友達をたくさん増やしたいと思います。

1年 近野 百莉愛

「めぐみ」を見て

私は、「めぐみ」を見て、「このようなことは二度とあってはならない」と思いました。拉致問題は、ニュースで少し見たことがありましたが、こんなにひどいとは思いませんでした。横田めぐみさんやその他の人も、一刻も早く戻ってきてほしいです。

6年 大原 愛結



シトラスリボン運動



2年 松家 巧

僕は、コロナで差別を受けている人がいなくなればいいなと思います。シトラスリボンをもって、コロナに負けないようにがんばろうと思いました。これからは、シトラスリボンに身に付けて、周りの人に優しくするように、心掛けていきたいです。

3年 伏木 叶

僕は、シトラスリボンをもって、とても安心しました。理由は、誰かが新型コロナウイルスにかかっても、このリボンを持っていれば、感染した人が差別されることが減ると思ったからです。これからもみんなで助け合って過ごしていきたいです。

5年 熊谷 まひろ

私は、シトラスリボンをもって、シトラスリボンを持っている人たちと気持ちがつながったような気がしました。また、このことをきっかけに、差別や偏見をもつような人をどんどん減らせたらいいな、と思いました。



車いす体験



4年 鈴木 一期

車いすを押すときは、細い道が大変でした。力も必要なので疲れました。段差のところで車いすを上を持ち上げることが難しかったです。乗っている時は、下り道が意外とこわかったです。いつも車いすを使っている人はすごいなと思いました。

4年 山中 柚叶

私は体が不自由な人の気持ちが分かりました。車いすに乗っていると、自由に体を動かすことができないので、不安な気持ちになりました。特にこわかったところは坂道です。これからは車いすに乗っている人が困っていたら声をかけたいと思いました。



アイマスク体験



4年 金澤 一杜

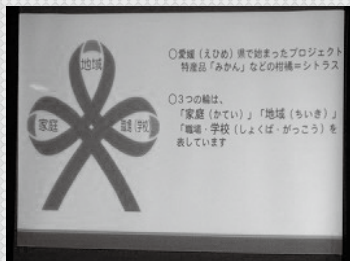
アイマスク体験をやってみて、僕は最初は白杖をあまりうまく使えませんでした。介助者は声かけが大切なことが分かりました。もしも僕が目の不自由な人に出会ったら、体験でした介助者の役目をきちんと果たしたいなと思いました。

4年 安部 綾乃

私は、白杖を使って階段を上り下りしました。介助者がいたので歩けましたが、いなかった場合は、自分の歩いている場所が分からなかったり、けがをしそうになったりして大変だと思いました。だから、町で目の不自由な人に出会ったら、声をかけてお手伝いをしてあげたいです。



新橋小学校では、地域の学校支援ボランティアの方々の協力を得て、体験学習を充実させています。人権講話では、「シトラスリボン」について社会福祉協議会の方に教えていただき、コロナ禍での人々との関わり方について考えました。4年生の総合的な学習の時間では、福祉について学習し、「だれにとっても住みやすい町」について考えています。ボランティアの皆様にお話を聞いたり、ふれ合ったりしながら、たくさんの方のことを学ぶことができました。



★人権講話「シトラスリボンについて」★

11月10日、「シトラスリボン」について、学びました。周りの人やその家族が新型コロナウイルスに感染してしまった時、私たちはその人たちにどのように接すればよいのでしょうか。コロナ禍での差別について考えました。

（児童の感想）

- 〇人けんをまもることで、みんながえがおになれることがわかった。（低学年）
- 〇みんなや友達にふわふわ言葉（相手を思いやる、やさしいことば）を使いたいです。相手の立場になってどう言えばいいかを考えられるようにしたいです。（中学年）
- 〇わたしは、「へんけん」や「さべつ」をあまり身近には考えていなかったけれど、とても身近なことなんだということを学びました。この「シトラスリボン」のことを家族や他の人たちに話したいです。（高学年）

★ふれあいウォークラリー★

10月30日 ふれあいウォークラリーでは、ふれあい班で新橋小学区を歩き、チェックポイントとなる各公園では班の児童みんなが協力してミッションを達成しました。また、歩きながらゴミ拾いを行い、野木町をきれいにすることができました。地域の人々に出会うと、進んで元気よくあいさつし、たくさんの笑顔が溢れました。



★総合「心のバリアフリー」★

手話・点字体験では、ボランティアの方から、手話や点字の打ち方などを学びました。

（児童の感想）

- 〇私は、目が見えなくて困っている人がいたら助けてあげたいし、障がいのある人でも、みんなが笑顔でいられるといいなあと思いました。
- 〇点字体験では、視覚障がいがある方に、点字で打った自分の名前を読んでもらったことがうれしかったし、通じ合えたと思った。



車いすやアイマスクを体験して、福祉について考えました。

（児童の感想）

- 〇アイマスク体験の時は、しじをするときに、右や左や前を言ってあげるといいことを学びました。私は、これから、障がいのある人がいたら、手伝ったり助けたりしたいなあと思いました。
- 〇障がいがある人にとっては、周りの人の支えが必要なのだと感じたので、困っている人を見かけたら助けたいと思った。



野木 中学校

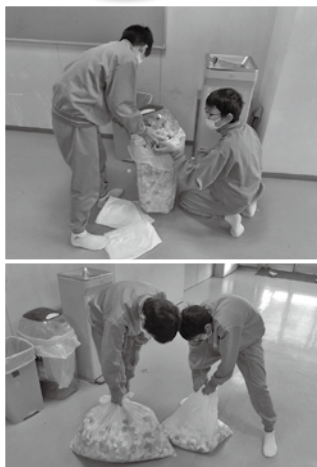
野木中学校では、福祉委員会を中心に毎月古紙・アルミ缶回収を行っています。昨年度までは、地域の方が協力していただきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、生徒の家庭にある古紙やアルミ缶のみを回収しました。収益金はチェーンソー購入の一部に使われ、今後樹木の多い野木中で活躍しそうです。

『ペットボトルキャップ回収』



いしざき ゆうたろう
3年 石崎 佑太郎

野木中学校では、福祉委員会を中心としてペットボトルキャップの回収を行っています。回収箱は、生徒昇降口と新体育館の入り口にあり、いつでも入れることができます。月に2日間行われる古紙・アルミ缶回収でも、ペットボトルキャップ回収の協力を呼びかけています。集まったペットボトルキャップは、ホープ館に運ばれてリサイクルされます。このリサイクルにより、予防接種を受けることのできない世界中の子供たちにワクチンを届けることができます。ペットボトルキャップ870個で、1人分のワクチンを届けることができるそうです。870という数字はとて多く感じますが、それで一人の命が助かると考えれば少なく感じませんか。今後とも、ペットボトルキャップ回収活動の理解と協力をよろしくお願いします。



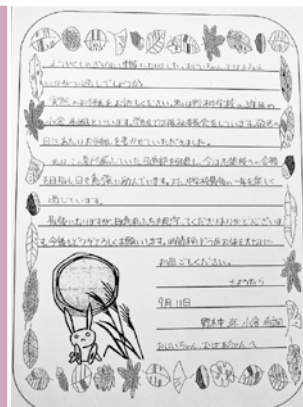
『高齢者への手紙』



おくら ののか
3年 小倉 希颯

私は、夏に地域の高齢者の方々に手紙を書かせていただきました。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の方との交流の場がなくなってしまいました。そのため、今回の高齢者の方々への手紙は、地域の方との貴重な交流の機会となりました。

この手紙は、福祉委員会の生徒が担当し、野木中の様子や普段伝えることができなかった感謝の気持ちなどを書いて送ることができました。手紙を読んでいただいた高齢者の方々が、少しでも野木中の様子を知ることができ、喜んでいただけたら幸いです。今回の手紙を通して、感謝の気持ちを伝えることができて本当に良かったと思います。



『ハンディキャップ体験』

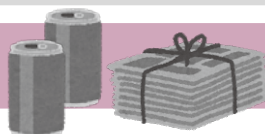


すわ ありす
3年 諏訪 杏里珠

私はハンディキャップ体験で、アイマスク体験をしました。アイマスクをすると視界が真っ暗で何も見えなくなるので、自分が今どこにいるのか分からなくなるような感覚に陥りました。足元が見えないので段差や障害物があるとつまずいてしまい、友達の助けがないと真っ直ぐ歩くことができません。周囲に何があるか、誰がいるか分かるということは大切な手がかりになるということを実感しました。

アイマスク体験を通して、視覚に障害がある人は、毎日大きな危険を乗り越えながら生活をしているということがわかりました。

『古紙・アルミ缶回収』



わたなべ みく
3年 渡邊 未来

私たち福祉委員は、毎月古紙・アルミ缶回収を行っています。回収量が多い月には、大きな袋に入ったアルミ缶でリヤカーがいっぱいになり、古新聞や雑誌などの古紙は100kgを越えることもあります。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で6月から始まり、生徒の家庭にあるもののみに限定して行っています。アルミ缶をリサイクルすることは、アルミを作るときのエネルギー節約や地球環境の保全にとっても、大きな意義のあることだと感じました。そのため、今後たくさん古紙やアルミ缶が集まるように活動に取り組んでいこうと思いました。



野木 二中

当たり前だと思っていた普段の暮らしを揺さぶっているコロナウイルス。たとえ感染したとしても誰もが笑顔で普段の暮らしを取り戻せるように、シトラスリボンプロジェクトを通して、温かい言葉掛けを考えました。また、感染は日本だけでなく海外でも広がっています。どこかで苦しむ人を救うために、NHK海外たすけあい募金を行いました。

さらに、野木二中では毎月、福祉委員会を中心にプルタブ回収を行っています。800kgで車イス1台と交換されます。必要とする人たちのためにも、今後も活動をしていきたいと思っています。

★プルタブ回収

てらうち ゆきなり
3年 寺内 幸成

野木第二中学校では、福祉委員会を中心にプルタブ回収を行っています。月に1度、各クラスで集めたプルタブを福祉委員が回収し、集計しています。集まったプルタブでは800kg分で車イス1台と交換されます。また、プルタブ回収を行うことによって学校全体のものを大切にする意識とリサイクルの意識が高まっています。まだまだプルタブは足りません。是非これからもプルタブ回収へのご協力をお願いします。



★NHK海外たすけあい募金

わたなべ あやな
3年 渡邊 彩愛

皆さんは、海外たすけあい募金を知っていますか。海外たすけあい募金とは、本校が加盟している、JRCのおおもとの団体である日本赤十字社などが中心となって、海外の紛争地域や災害において、食糧や家を失った方、衛生面での開発が行き届いていない地域などに援助する募金活動です。

私達は、どこかで苦しむ誰かを救うためにこの募金活動を行いました。

多くの生徒や先生方が参加してくれたため、たくさんの募金が集まり、人の心の温かさを知ることができました。

きりばし るみ
2年 霧林 琉美

私は、この募金を行う上でどのような活動を行っているのかをインターネットや学校での話などから学びました。

すると、たくさんの国が東日本大震災の時に募金などの支援をしてくださったことや私たちが送った募金によって貧しい国の子供たちが助けられるということを知りました。私は、今後、苦しむ子供たちが一人でも減るように、自分だけが募金するのではなく一人でも多くの人に募金を呼び掛けていきたいです。



★シトラスリボンプロジェクト

コロナ渦において、コロナウイルスに感染した人や医療従事者への差別が生まれています。そんな中で、「ただいま」「おかえり」と言い合えるように、シトラスリボンプロジェクトについて考えました。もしもクラスメイトが感染したら。もしも部活動の仲間が感染したら。「あなたは何か声をかけてあげますか」をテーマにメッセージを書きました。

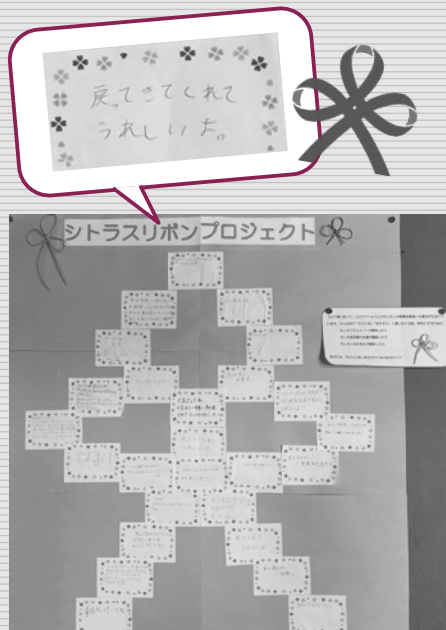
+++++

やまじ みつき
3年 山路 光生

コロナウイルスによって差別が生まれてしまうことを知り、とても嫌な気持ちになりました。僕はもし野木町でコロナが広がってしまったら、「体に気を付けてね。応援しているよ」と声を掛けたいです。

ますだ ゆうた
2年 増田 悠太

早くコロナウイルスがなくなってほしいです。そして感染してしまった人も、はやく治りますように。僕は、もし身近な人が感染してしまったら、「大丈夫？」と優しく声をかけてあげたいです。



手話サークル「野和の会」

秋山 由美子

私たち手話サークル「野和の会」は、毎週月曜日ホープ館で手話を学んでいます。

手話は「ろう者のことば」です。耳が聞こえる人は「音声」を使って自分の気持ちを伝えますが、ろう者は「手話」で話します。耳が聞こえる人が使う「音声」の日本語は「聞く言葉」であり、手話は視覚言語であり「目で見ることば」です。

サークルでは、交流の中で、ろう者の方の生活や文化の違いなども教えていただき、手話でお互いに気持ちを伝えあうことができたときは、とても温かい気持ちになります。

今年度は新型コロナウイルスの影響で手話ボランティア活動も制限されましたが、多くの方に手話を覚えて頂きたい、これからも手話サークル活動を続けていきたいと思ひます。

皆さんの手話サークルへの参加、お待ちしております。



手話サークル「野和の会」

活動日：毎週月曜日(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：1,000円

手話サークル「虹の会」

活動日：毎週土曜日(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：1,000円

点友会「のぎ」

小林 房枝



点友会「のぎ」

活動日：第2・4火曜日(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：500円

私たち点字ボランティアの活動の一つに、各学校での点字体験学習のお手伝いがあります。今年はコロナ禍の中、点字を体験していただく機会はとて少なくなりました。

点字体験学習を通じて得るものは点字の書き方、読み方だけではなく、目の不自由な方に対する理解や、助け合いの心、安全な歩行の為のサポートの仕方、食事の時の心配りなどを学びます。

「目は自分の為だけに使うものではない。」という視覚障害を持つ仲間の言葉には大変説得力があります。直に話を聞くことは何よりも心に響くものだと思います。

目の不自由な方が困っている様な時、又危険に気付かない様子を見かけた時は、勇気を出して声をかけて下さい。

「お手伝いしましょうか？」それがサポートの第一歩です。

朗読の会「のぎく」

滝澤 智津子

私たちは「目の不自由な方などに、町の配布物を録音してお届けしよう。」を目的に、社協主催により行われた朗読講座を受講後、平成6年よりボランティアをはじめました。

主に町広報紙、社協情報誌「ぽけっと」、議会だより、お知らせなどをCDにして視覚に障害のある方に郵送しています。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、録音以外のさまざまな活動が中止となりました。

その様な状況ではありましたが、感染が落ち着いていた9月に、長年続けていた図書館での「朗読会」を開催しました。3密に気を付けながらの開催で、聞きに来てくださった方々もいつもの半分ほどでしたが、楽しく聞いて頂けたようで、本当にうれしい朗読会でした。

これからも声に出して読むことにより、さまざまな活動を続けていきたいと思ひます。ボランティアチャレンジスクールなどが行われた時には、ぜひ参加してみてください。いつもと違った体験が待っていますよ。



朗読の会「のぎく」

活動日：第1・2・3水曜日、第4金曜日
(午後1時30分～午後4時)
(第1水曜日は午前9時30分～)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)、
図書館 他
年会費：500円

赤い羽根共同募金 × 福祉教育



赤い羽根共同募金とは、

共同募金は、戦後間もない昭和22(1947)年に、市民が主体の民間運動として始まりました。当初、戦後復興の一助として、被災した福祉施設を中心に支援が行われ、その後、法律(現在の「社会福祉法」)に基づき、地域福祉の推進のために活用されてきました。

社会の変化のなか、共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」として、取り組まれています。

みなさんにご協力 いただいた募金

- 戸別募金 (区、自治会)
- 店頭募金
- 街頭募金
- 社協へ直接

募金を送金

栃木県共同募金会

46%

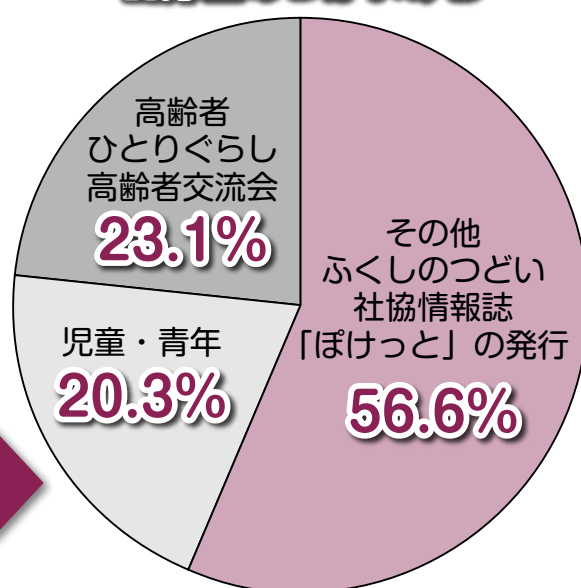
栃木県内の
福祉施設や
災害支援 等

54%

野木町へ

配分

令和2年度 赤い羽根共同募金 配分金のつかいみち



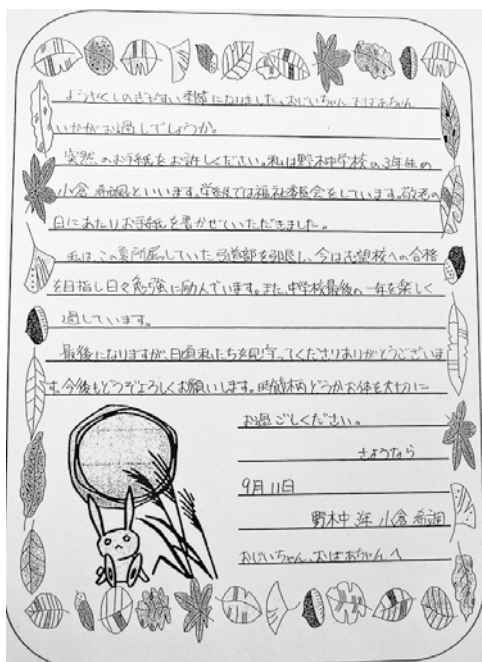
野木町内の小・中学校での取り組みをご紹介します



← ふれあいウォークラリー
(新橋小学校)



← 地域福祉新聞の発行



← 高齢者への手紙 (野木中学校)

本誌で紹介した他にも、各学校で地域の特色に合わせた事業を実施しています。
赤い羽根共同募金へのご協力をお願いします。